

イギリス	フランス	ドイツ (P211年)	賠償問題	イタリア (P211年)
1918 第4回選挙法改正 (成年男子及び30歳以上の女子に参政権)	1919 クレマンソー狙撃事件	1917 独立社会民主党成立 1918 ドイツ革命 ドイツ共産党成立 各地にレーテ成立 1919 スパルタクス団のベルリン蜂起→失敗 ドイツ労働者党結成 エーベルト(社会民主党)、大統領に就任 ヴェルサイユ条約調印 ヴァイマル国民議会の召集 ヴァイマル憲法制定(ヴァイマル共和国成立) カッパー揆(右翼、軍部のクーデタ)→失敗 国家社会主義ドイツ労働者党(ナチス)成立	1921 ロンドン会議 ドイツの賠償金額1320億金マルク決定 賠償金は金での支払いが前提となったため、1マルク=金0.358gとする金マルクが使われた ドイツ支払い延期を要求 ドイツの破局的インフレーション ←ルール占領 シュトレゼマンによる Rentenマルク発行	1919 ムッソリーニ、「戦闘者ファッション」結成 フィウメ占領 1920 北イタリアのストライキ 1921 社会党左派、イタリア共産党結成 ファシスト党成立 1922 ローマ進軍 → ファシスト内閣成立 1924 ファシスト政権、フィウメ併合
1922 アイルランド自由国(首相デ・ヴァレラ)成立 (自治領として独立 → 1937エール 共和国として完全独立国家)	1920 フランス共産党成立	1920 ヴェルサイユ条約調印 ヴァイマル国民議会の召集 ヴァイマル憲法制定(ヴァイマル共和国成立) カッパー揆(右翼、軍部のクーデタ)→失敗 国家社会主義ドイツ労働者党(ナチス)成立	1924 ドーズ案 支払い期限の延長と外貨導入による打開策 1929 ヤング案 賠償金額を358億金マルクに減額 1931 フーヴァー=モラトリアム 支払い期間1年延期 1932 ローザンヌ会議 賠償金額を30億金マルクに減額 (賠償金の支払いを一時的に打ち切る ← ナチス政権)	1927 アルバニアの保護国化 1928 ファシスト党の一党独裁完成 (ファシズム大評議会が最高機関) ラテラン条約 1929 ラテラン条約 (教皇庁との和解、ヴァチカン市国独立)
1924 マクドナルド労働党内閣(第1次)、 ソ連を承認	1922 ボワンカレ内閣(対独強硬政策) 1923 ルール占領開始 1924 エリオ左派連合内閣、ソ連を承認	1921 ロンドン会議 1922 ラバロ条約(ソ連を承認) 1923 フランス・ベルギーのルール占領 ミュンヘン揆 → 失敗 1925 ロカルノ条約(外相シュトレゼマン活躍) ヒンデンブルク、大統領に就任 ヒトラー[わが闘争]、親衛隊(SS)創設 (P24236史)		
1925 ロカルノ条約	1925 ロカルノ条約(外相ブリアンの活躍)	1926 国際連盟に加入(→ 1933脱退)		
1926 イギリス帝国会議 (イギリス連邦全体の協力をめざす)	1926 ボワンカレ挙国一致内閣	1926 ナチス政権成立(第三帝国 ~45)		
1927 労働組合法公布	1928 パリ不戦条約 (ブリアンと米国務長官ケロッグの活躍 → 「ケロッグ・ブリアン協定」)			
1928 第5回選挙法改正 (男女完全普通選挙制の実現)	1929 ブリアン、「ヨーロッパ連邦案」提唱			
1929 マクドナルド労働党内閣(第2次)				

大戦後の女性の社会進出

戦争で邪魔になる
髪は短くなった



宝飾は富の象徴で
楽しむ、つけて

ゆったりとしたブラウス
男物からヒントを得た
シャネル・スーツ

動きやすい
短いスカート
歩きやすい
ローヒール靴

●各国の女性参政権獲得年

1893	ニュージーランド
1902	オーストラリア
1906	フィンランド
1913	ノルウェー
1915	デンマーク
1917	オランダ・メキシコ
1918	イギリス(30歳以上) ソ連・オーストリア
1919	ドイツ
1920	アメリカ・インド
1921	スウェーデン
1928	イギリス
1934	トルコ
1944	フランス
1945	日本・イタリア

大戦中の総力戦体制における女性の活躍の結果、戦後各国では女性参政権の実現など女性の社会進出が目立った。

●ココ=シャネル (1883~1971) 1920年代のパリで活躍したデザイナー。女性をコルセットから解放し、機能的なファッションを確立。

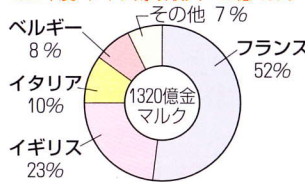
2 賠償問題をめぐるドイツの動揺



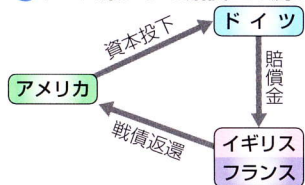
ドイツ領内を行進するフランス軍。

A 賠償金分配率

1921年度 ドイツ財政収入=52億マルク



B ドーズ案による賠償金の流れ



ルール占領

給料として支給された紙幣の山



●解説 ヴェルサイユ体制を左右する最大の問題は、ドイツの賠償問題であり、その過酷な賠償金は、ルール占領など一連の危機を引き起こした。この危機は、Rentenマルクの発行やドーズ案により回避され、1920年代後半のヨーロッパはロカルノ条約・ドイツの国際連盟加入など相対的安定期を迎えた。背景にはラバロ条約(1922)以降のドイツとソ連の接近を憂慮する戦勝国の思惑があったとされる。

1 kgのライ麦パンの値段(年・月)	(マルク)
1914.12	0.32
18.12	0.53
22.12	163.15
23.4	474
23.6	1,428
23.8	69,000
23.9	1,512,000
23.11	201,000,000,000
23.12	399,000,000,000 (1914年の1.2兆倍)

平和外交の立役者たち



●アメリカ国務長官ケロッグ (1856~1937)
●フランス首相ブリアン (1862~1932)
1920年代後半の欧米では平和の気運が盛り上がったがその陰にはシュトレゼマン(独)・ブリアン(仏)・ケロッグ(米)らの努力があり、3人はその功績により20年代末に相次いでノーベル平和賞を受賞した。
●ドイツの国際連盟加入(1926年) 1925年のロカルノ条約で国際的地位を向上させたドイツは、翌年国際連盟への加入を実現させた。



国際連盟総会で演説する独外相シュトレゼマン